

編集後記

『人間科学研究』第5巻第1号をお届けします。人間科学部は完成年度を終え、5年目を迎えました。今号は、こども学科4件、スポーツ学科1件の研究成果が寄せられました。

北川氏・永坂氏は、大学でも義務化されたキャリア教育を模索すべく、こども学科学生を対象にヒアリング調査を行い、資格取得・現場体験・進路決定等の相関を分析しました。

谷中氏は、吹奏楽部指導の実践経験を回顧し、定期演奏会の成功や地域に根差したスクール・バンドをめざす生徒等の人間的成長の足跡から、音楽教育の可能性を示唆しました。

寺井氏は、東日本大震災に遭遇した石巻市内の学校へスクールカウンセラーとして派遣された経験から「教員の精神的安定なくして、こどもの精神的安定はない」と訴えました。

村井氏は、ICT教育の最先端、書き込み可能なタブレットPCとインタラクティブ・ホワイトボード(IWB)の活用事例を調査研究し、協働学習の効果と課題について検証しました。

大森氏・杉林氏・島田氏・太田氏は、進化した哺乳類である人間の足の構造と機能について、足把持力・握力・スプリント力を中心に姿勢と運動の相関を多角的に実証しました。

どうぞご高覧ご批評くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

今回の東日本大震災によって、衣食住に困らない平穏な家庭生活、地域の児童が安全に安心して学校教育を受けられる日常が如何に有り難く幸福なことかを思い知らされました。

文藝春秋8月臨時増刊号『つなみ 被災地のこども80人の作文集』の山内瑞歩さん(南三陸町 志津川小学校6年)の作文「あたりまえのような幸せ」に「震災の前、大好きな私の家で家族みんなで生活していたこと。お母さんと一緒にごはんを作ったこと。家族みんなで食べたこと。いつでも電気がついて蛇口をひねれば水が出たこと。あたりまえのように思っていたその一つが決してあたりまえなのではなくて、とても大切に幸せで何よりもの宝ものだと思うのです。」と記されていたのが、胸に響きました。

大震災から半年が経ちましたが、こどもたちが1日も早く、家庭や学校で安全・安心な生活を送れますようにと願ってやみません。

2011年9月吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学会に帰属します》